

調査書作成上の留意事項（普通科）

I 記入上の全般的注意

- 1 調査書の作成に当たっては、黒のペンを用いる。鉛筆書きした原本を複写してもよい。ワープロ等の使用も可とする。
- 2 令和8年3月卒業見込みの者の調査書には、令和7年11月末日までの事項を記入する。（過卒の場合は、中学3年次の状況を記入）
- 3 数字はすべて算用数字を用いる。
- 4 誤記を訂正する場合は、消しゴム、ナイフ、修正テープ等を用いず、記載責任者が訂正箇所を二重線で消し、訂正印を押して訂正する。
- 5 *番の欄は記入しない。
- 6 氏名は生徒指導要録（住民票）の記載のとおり記入する。手書きの場合は、ゴム印を用いず楷書で記入する。
- 7 性別については、「男・女」のどちらかを○で囲む。
- 8 特別支援学級種別は、特別支援学級に在籍している場合は「知的」「肢体」「病弱」「弱視」「難聴」「自閉・情緒」「言語」のいずれかを記入する。通常学級、特別支援学校に在籍の場合は、斜線（左上から右下）を引く。
- 9 調査書等作成委員会の欄には、記載責任者の認印を押す。
- 10 作成した調査書は、生徒指導要録等の原本と相違ないか複数の担当で照合、確認すること。
- 11 パソコンで作成する場合は、この様式に合わせて記入する。ただし、左側余白を25mmとり両面印刷とする。

II 各欄記入上の注意

1 「障害」「診断名」の欄について

- (1) 障害名は、下記の5つの障害のうち、該当するものを記入する。（該当する場合は複数可）

・知的障害	・病弱	・肢体不自由	・視覚障害	・聴覚障害
-------	-----	--------	-------	-------

※知的障害に該当しない場合は、出願資格がないことになります。

- (2) 医療機関における診断名（自閉症、ADHD等）がある場合は記入する。特にない場合は、斜線（左上から右下）を引く。

2 「心理・発達検査等」の欄について

- (1) 外部の専門機関で検査した結果を記入する。不明な場合や未実施等の場合は「検査名」の欄に「なし」と記入する。

3 「学習の記録」の欄について

- (1) 学習の状況については、教科ごとに指導して何ができるようになったかや課題として残っていることを簡潔に記入する。
- (2) 教科等の欄は貴校で実施している教科および指導の形態名で記入する。
- (3) 特別活動等の記録については、特別活動、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳の中で、特筆すべき内容を端的に記入する。
- (4) それぞれの欄で記入仕切れない場合は、副申書で補足してもよい。

4 「発達の様子」の欄について

- (1) 基本的生活習慣については、衣服の着脱、排せつ、食事、睡眠などについて簡潔に記入する。
- (2) 運動能力については、移動（歩・走・跳の動き）、上下肢の動き、姿勢保持などについて簡潔に記入する。
- (3) 手指機能については、手先の器用さ（用具の扱い、作業時の手先の動き等）や興味のある物への反応等について簡潔に記入する。
- (4) 言語理解については、意思表示や指示に対する反応、日常生活での様子などについて簡潔に記入する。
- (5) 社会性については、集団生活における生徒の様子や友達や教師との関わりなどについて簡潔に記入する。
- (6) それぞれの欄で記入しきれない場合は、副申書で補足してもよい。

5 「現在の状況」の欄について

- (1) 性格や行動の特徴については、性格、情緒の安定、興味や関心、意欲、見通し、緊張の状態、喜怒哀楽の表情などについて簡潔に記入する。
- (2) 健康面で配慮しなければならないことについては、学校生活全般において特に配慮が必要なことを具体的に記入する。特になければ「特になし」と記入する。
- (3) 家庭の教育によせる関心については、個別の教育支援計画を参照しながら、学校教育に対する保護者の願いや学校に対する協力、学校行事や面談等への参加度合いなどを簡潔に記入する。
- (4) その他の特記事項については、就学中の転入学があった場合や、高等部卒業後についての本人や保護者に意思がある場合は記入する。また、それらも含め、特に何もない場合には、「なし」と記入する。

6 「出欠の記録」の欄について

- (1) 欠席日数は、各学年の欠席日数を記入する。欠席がない場合は0と記入する。また、欠席日数が7日以上の場合には、その事由についても記入する。
(途中で転入学してきた場合についても、転出した学校と連絡を取り合い、欠席日数を確認して記入する。)